

【資料5 - 3】

平成16年度広島市立舟入高等学校公開研究授業学習指導案

教諭 佐藤将記

1. 期日 11月11日
2. 時間 6限「総合英語」
3. 対象 1年10組(普通科・国際コミュニケーションコース) 20名
4. 内容 動名詞・・・用法習得のための言語活動
5. 単元設定の意図

(1)教材観

動名詞を含む準動詞の学習は、ルールの理解、定着、運用の複雑さの点で高等学校の履修内容でも英文法学習における難関の一つと考えられる。

本科「総合英語」の学習目標は、英文法の基礎知識を体系的に学習し、その知識(Knowledge of Grammar Usage)を、英語を正確に読み取り、聞き取る力、また、正しく書き、話す力に結びつけ、総合的な運用能力を高め、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることである。しかしながら、レクチャー方式の授業で身につけた知識面での理解も、実際にアウトプットに結びつける定着練習(Pattern Practice)が不十分であると、生徒のコミュニケーションな言語運用能力の向上にまで学習を高めることはできない。その結果、英語でコミュニケーションを図ることに対して積極的になれないばかりか、結果的に、文法知識そのものの定着も図ることができない。従って、言語の本質的な定着を図るために言語・文法知識の運用を徹底することが求められる。

(2)生徒観

多くの生徒は、「文法の学習は面白くない」という固定観念を持っており、これを単に知識の習得と問題演習による定着度の確認という作業課題と捉えかねない。実際、本科においても結果として知識の伝達に多くの時間を割いており、そのために生徒はコミュニケーションな英語力を身につけるための活動と文法の学習は全く異なるものとの認識を抱いているものと思われる。従って、本時は動名詞における知識(knowledge)は一定レベルまでインプットされていることを前提に、そのインプットされている文法面での知識を、コミュニケーションな活動を通して、いかにアウトプット面の強化に結びつけることができるかの試みとして位置づけたい。

(3)指導観

文法の知識をコミュニケーションでの運用へと移行するための活動として、CALLの特性を生かしてのRecitation Practice や Pattern Practice は、即時性、即興性の求められるスピーキングやライティングの力を向上させるうえで非常に効果的であることに疑いの余地はない。その有効性を高めるためには、ペアワークの多用など、生徒がより積極的に発話(Oral Production)を行える環境を整えることが重要である。

6. 学習指導計画

次	学習内容・学習活動
1	動名詞の導入(動名詞の働き、意味上の主語の明示、否定語の位置、完了形の動名詞など)
2	動名詞を用いての書き換え(節から句への変換)
3	目的語としての動名詞(動詞の目的語として不定詞をとる場合、動名詞をとる場合、不定詞と動名詞で文の意味がことなる場合)
4 本時	動名詞に関してインプットされた知識をアウトプットに結びつける言語活動

7. 本時案

(1) ねらい

レシテーション(Recitation Practice)、レスポンス(Response Practice)などの言語活動を通してできるだけ数多く発話練習(Oral Production)を行い、伝えたい情報などを正しく伝える上での基礎能力の定着を図る
 学習した動名詞に関する知識を、実際の対話の場面で正しく活用できるようにする
 ペアワークにおいて、相手の発する質問の内容を正しく聞き取り、的確な返答ができるようにする。また、既習の文法知識を会話の中で正しく活用できるようにする

(2) 学習過程

時間	活動	目的・留意点
(1) 5分	<u>Rephrasing Practice</u> (書き換え練習) 1)画面上の英文を見ながら、教師が読む文をリピートする。(節で表現された文) 2)1)で読んだ文について、口頭で動名詞を用いて書き換える。	(コンピューターの画面を見ながらの学習) 前時までの学習内容の復習 「節」から「句」へ変換する際の学習ポイントを押さえる。 できるだけ早いスピードで読んだり、質問に答えたりすることで、流暢さの向上を心がけさせる。
(2) 15分	<u>Recitation Practice</u> (暗唱練習) 1)画面上の、空白を施した英文を見ながら、各自ブースで空白部分を埋めて読まれる英文を聞き、リピートする。 2)次に、空白部分を補った英文が、画面上に提示されると、各自で英文を聞きシャドウイング、オーバーラッピング、リピートなどしながら暗唱の練習をする。 3)指名された生徒は、再び画面に提示された空白を施した英文の空白部分を補って英文を読む。	(コンピューター画面とLLをリンクさせた学習) この活動は、レシテーションが生徒のコミュニケーションに対する意欲を高め、英語を「話す」「書く」上での正確性の向上にも役立つメソッドであることを最もシンプルに具現化したものである。 生徒は15分間にわたり、徹底的にアウトプットを行わなければならない。
(3) 15分	<u>Pair Work: Infinitive or Gerund as object</u> 1)生徒をランダムにA、Bのグループに分ける。 2)グループAにはAシートを、グループBにはBシートを手渡す。同一グループ内の4～5名が共同で手渡されたシート上の()内の語を適切な形に直す。 3)ブースを通してのペアワーク。片方が()内の語句を適切な形に直して疑問文を問いかけると、そのパートナーがエコーさせる形でその質問に答える形式。	(目的語として不定詞・動名詞のどちらをとるのかについての定着練習。ペアのそれぞれが、内容の異なるプリントA、Bを手元に持ち、ヘッドセットを通してペアワークする) 例)A sheet)Do you avoid (ride) a bicycle on a rainy day? の英文について、Do you avoid riding a bicycle on a rainy day? と()内の語を適切な形に直して質問する。パートナーの答え方)Yes, I avoid riding a bicycle on a rainy day. とエコーさせる形で答える。 このペアワークは、「質問文を構成する その質問に正しく返答する」練習が会話(ダイアログ)を開始(instigate)させる際に有効である点を重視させた活動である。
(4) 15分	<u>Small Conversation Practice:</u> <u>“Find Things in Common”</u> ランダムに作られたペアが、ブース越しに自由に会話する。会話を通してわかった相手のことを全体にレポートする形で発表する。	(ヘッドセット越しのペアワーク) 生徒が自分の発話する英語の「正確さ」を気にしすぎると活発なダイアログが阻害されるため、「正確さ」を気にしすぎず、相手とヘッドセット越しに「意志疎通」することに重きを置いて行うことを奨励すべきである。